

図書館における AI の活用は、 「検索」から始まります

学術情報により速く、より正確にアクセスしたい学生や研究者のために。

EBSCO はリンクトデータ (Linked Data) * を基盤とした新しい知識グラフ——“EBSCO Scholarly Graph (以下 ESG)” を公開し、ESG を活用したインテリジェントな検索機能の開発・搭載を開始しました

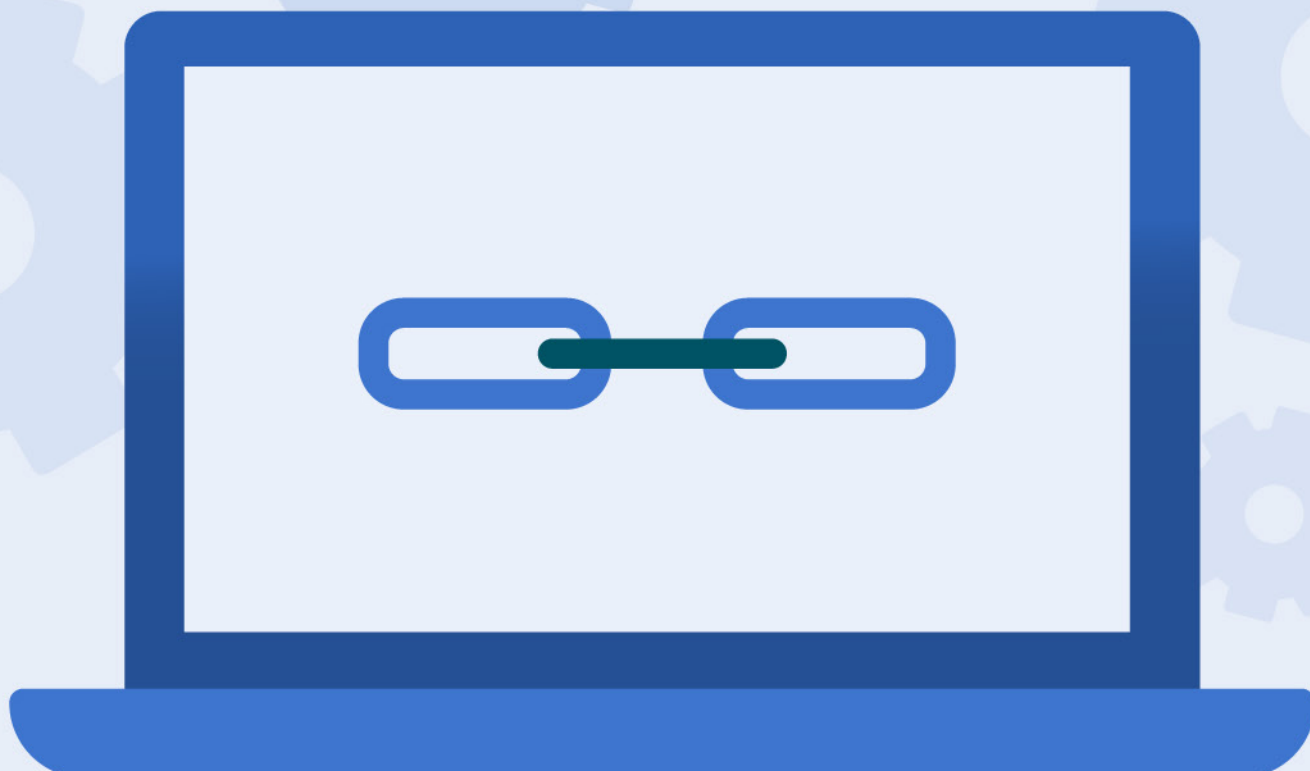
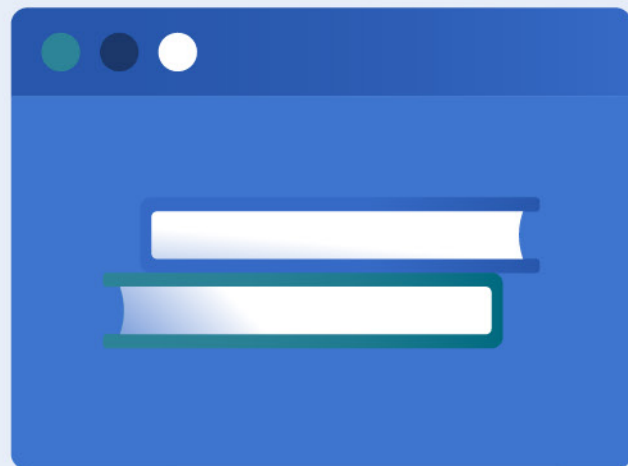
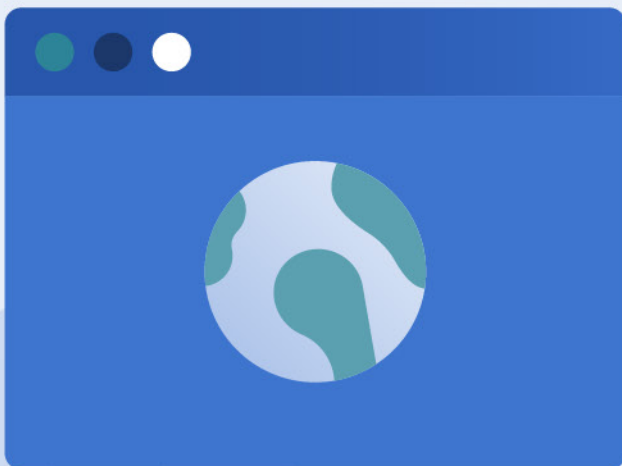
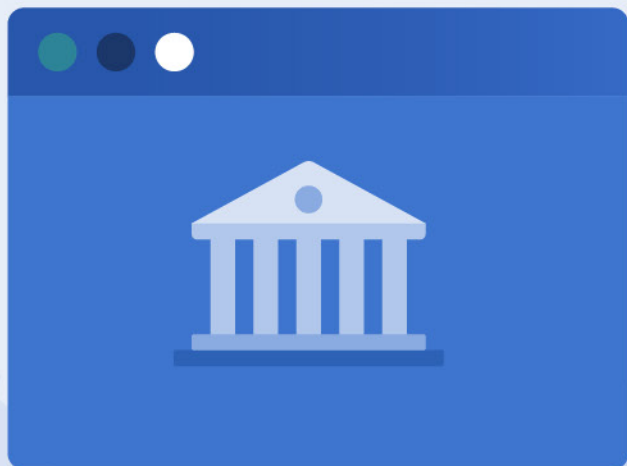
リンクトデータは単なるメタデータに留まらず、人物・機関・テーマを繋ぐことで、より深い検索を可能にします。これは単なる AI 検索ではありません。図書館と利用者ニーズを深く理解してきた EBSCO だからこそ成しえた、リンクトデータを活用した独自の技術です。

繋がったデータが生み出すより高度な学術情報検索を、今すぐ体験して下さい。

*リンクトデータ (Linked Data) とは —————

リンクトデータは、インターネット上で構造化されたデータを公開する方法であり、個々のデータセットを意味のある方法で接続し、アクセスすることを可能にします。

インターネットの生みの親として知られる Tim Berners-Lee によって提唱されたリンクトデータは、ユーザーが関連するデータセットを検索・比較できる、リンクされたオープンデータクラウドの構築を可能にします。



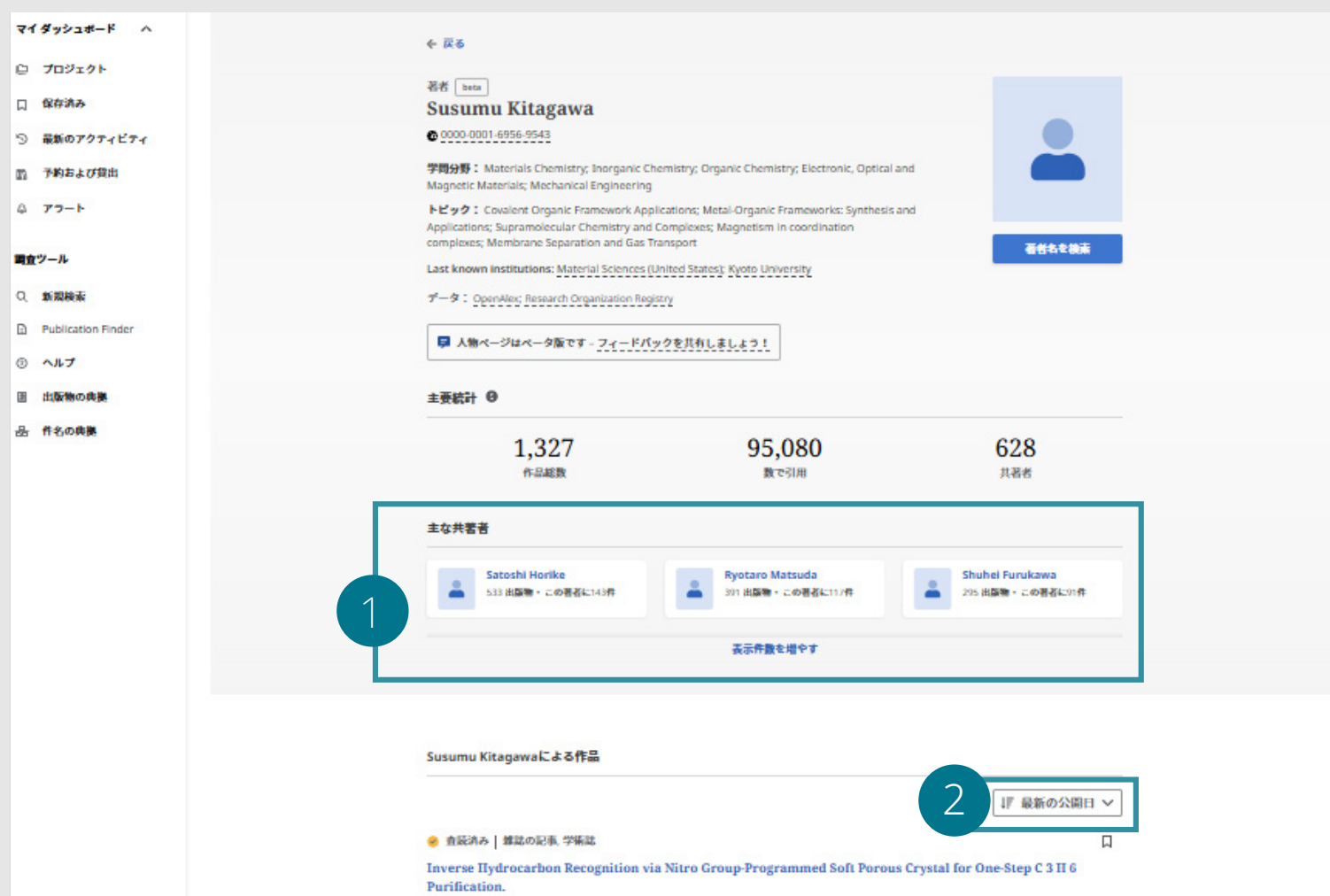
People Page*ベータ版

複雑な著者・共著者の情報も
ワンクリックでクリアに見通す

EBSCO Scholarly Graph の収録レコードを基に、著者および共著者を検索することができる機能です。著者名をクリックすることで専用ページに移し、ORCID* や OpenAlex* のプロフィール、共著者ネットワーク、主要な論文、引用回数などを 1 ページで確認できます。

*ORCID - 研究者に割り振られる固有の識別子 (ID) です。同性同名や似た名前など研究者名の混同を防ぎ、研究成果を正確に同定する上で役立つものです。

*OpenAlex - 論文、著者、機関、ジャーナル、トピック間の関係を構造化して示すデータベースです。



この機能を活用する上でのヒント

- 1 **主な共著者:** 研究者 (著者) 間のつながりや、影響力を視覚的に把握し、特定の研究分野におけるキーパーソンが誰か、素早く特定するのに役立ちます。
- 2 **フィルター機能:** 公開日 (最新) 順、引用数順などで論文を並び替えることで、必要な研究成果を効率よく見つけ出すことができます。

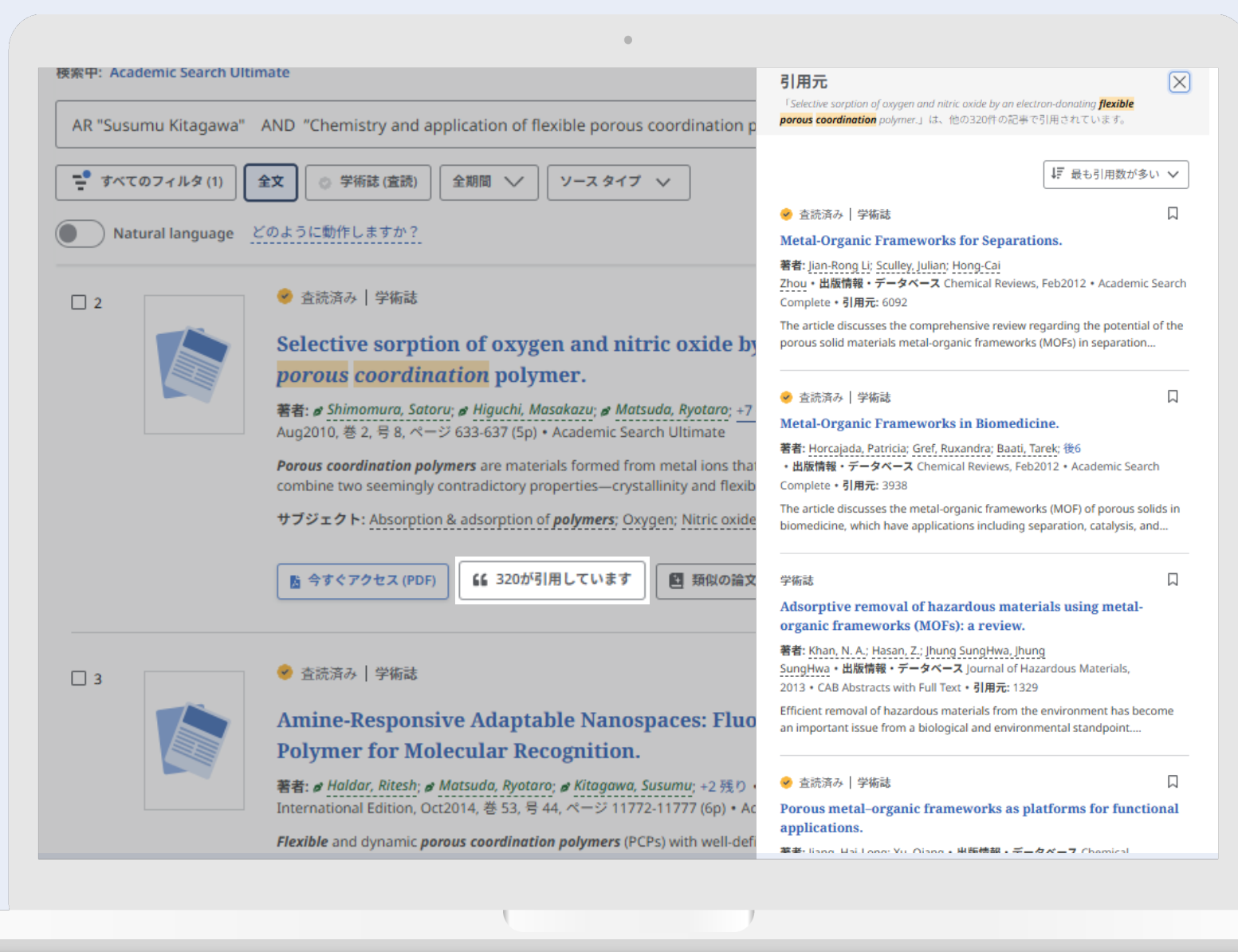
※ 本機能は現在ベータ版です。一部の EBSCOhost データベース / EBSCO Discovery Service に標準搭載されます。

EBSCO Citation Discovery

数字が物語る、論文の影響力

EBSCO Scholarly Graph の収録レコードに基づき、各論文が引用されている回数を、検索結果画面上で視覚的に示す機能です。

これを通して研究者は特定のトピック・主題分野において影響力のある文献を素早く見つけ、研究の流れを把握し、自身の研究に必要な主要資料を効率的に選び出すことができます。



この機能を活用する上でのヒント



被引用論文(Forward Citations) もリンクされているので、最新の研究動向や後続研究を追跡するのに役立ちます。



優れた論文は一般的に引用数が多い傾向があります。引用数の多い論文を活用することで、自身の研究の質も向上させることができます

References

この論文の背景は？ 参考文献が示す「つながり」を辿ろう

EBSCO Scholarly Graph の収録レコードに基づき、論文が引用している文献を直感的に辿ることができる機能です。

論文詳細ページ内の References [参考文献] から、その論文がどの文献を引用したかを一目で確認できます。これにより、学生・研究者は論文の学術的な文脈を素早く把握し、関連文献を自然にブラウジングできます。



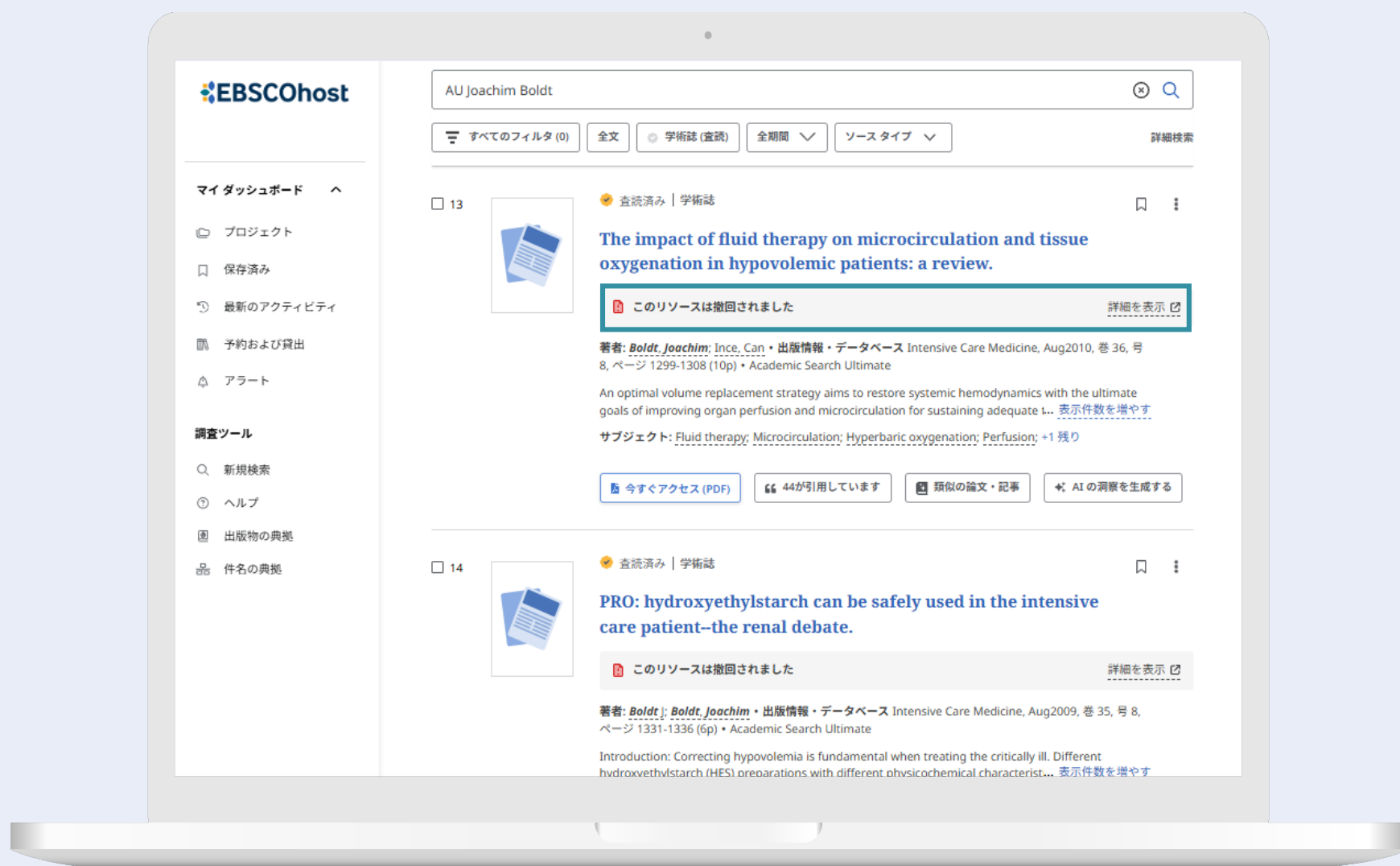
この機能を活用する上でのヒント

- 1 **論文の詳細ページへアクセス:** 記事タイトルをクリックして、詳細ページを開きます。
- 2 **References [参考文献] タブへ切替え:** 詳細画面内にあるタブから Reference [参考文献] を選択します。
- 3 **フィルター機能:** 公開日 (最新) 順、引用数順などで論文 (文献) を並び替えることで、必要な研究成果を効率よく見つけ出すことができます。

Retraction Indicator

その情報、参照 / 引用しても大丈夫？ 撤回された論文を明確に示す

Retraction Indicator は、EBSCO Scholarly Graph の内容に照らし、深刻な誤りや研究倫理違反によって、公式に撤回された学術論文を明示してくれる機能です。撤回・訂正情報は、信頼できる第三者機関のデータと、社内データを統合し、照会されています。撤回、もしくは修正された論文は、検索結果一覧および詳細画面に「このリソースは撤回されました」というラベルが表示され、利用者が不正確な情報を参照 / 引用することを防ぎます。



この機能を活用する上でのヒント



誤情報の混用を防ぎ、正確な文献選定を：検索結果リスト上で撤回論文を識別し、正確性の高い文献のみを選ぶことができます。レビュー論文やメタ分析、学位論文など、厳密な文献選定が必要な場面で、誤った情報の参照・引用リスクを避けることに繋がります。



研究の透明性を確保：撤回済であることが示されても、論文（もしくはメタデータ）自体は閲覧できます。撤回理由や訂正内容を確認できるので、研究倫理の確認や文献レビュー、再検証に活かすことができます。